

1. 瀬戸内圏研究センターと

庵治マリンステーションの組織体制

瀬戸内圏研究センターは、香川大学研究推進機構の一組織として、平成21年3月1日に設立された。また、同年4月1日には農学部附属浅海域環境実験実習施設を庵治マリンステーション（Aji Marine Station）として改組し、同センター内に設置した。本研究センターの組織体制を以下に示す。

また、瀬戸内圏に関する情報のデータベース化を図るために香川大学瀬戸内圏研究センター情報拠点機能強化推進事業（香川県ふるさと雇用再生特別基金事業）によるデータ・マネジメント・ステーションが平成21年7月21日から始動した。

研究推進機構長	前田 肇（平成21年9月まで） 田島茂行（平成21年10月から）
瀬戸内圏研究センター	
センター長	本城凡夫
副センター長	多田邦尚（農学部兼任）
特任教授	原 量宏（平成20年度は医学部教授）
准教授	一見和彦
庵治マリンステーション	
ステーション長	多田邦尚（農学部兼任）
技術専門職員（船長）	濱垣孝司（平成21年度2月まで）
データ・マネジメント・ステーション	
技術補佐員	青木昌子
技術補佐員	美馬加奈子
技術補佐員	渡辺美紀

庵治マリンステーション の紹介

本施設は四国最北端である庵治半島の先端に位置します。周辺には砂浜や岩場などが多く見られ、自然環境に恵まれています。調査船「カラヌスⅢ」（19t）及び小型作業船「ノープリウスⅡ」（1.1t）が配備され、香川大学の海に関する教育研究の前線基地となっています。調査船で海洋観測を行い、施設で分析・観察を行っています。研究用機器として、各種海洋観測機器および全窒素・リンなどの栄養塩自動分析装置が備えられ、海の富栄養化、貧酸素水塊、養殖漁場環境、あるいは干潟域の環境等の研究を行っています。また、

農学部海洋環境実習、全学共通科目の授業にも活用されています。

瀬戸内圏研究センターへの改組に伴って、平成22年3月までに、マリンステーションの施設をリニューアルしました。

(庵治マリンステーションの位置)



庵治マリンステーション全景



調査艇「カラヌスⅢ」



瀬戸内圏研究センターの設立



写真左から多田邦尚副センター長、本城凡夫センター長、
一井眞比古学長、前田 肇研究推進機構長